

せん妄に対する抗精神病薬（ハロペリドール・クエチアピン・ペロスピロン・リスペリドン）の使用について

実施内容	せん妄による不穏、興奮、幻覚、危険行動等の症状に対し、症状緩和および安全確保を目的として抗精神病薬を使用する。
対象患者	・入院中にせん妄を発症した患者 ・不穏、興奮、幻覚等により治療継続や安全確保が困難な患者 ・非薬物療法のみでは十分な症状改善が得られない患者
承認日	2026年7月8日（承認外医薬品使用評価委員会 承認）
実施期間	承認日以降、継続的に実施する
目的・概要	せん妄は急性に発症する意識・認知機能障害であり、不穏、興奮、幻覚、注意障害等を伴う。高齢者、術後患者、集中治療患者などに高頻度で認められ、転倒、自己抜去、治療中断等の重大なリスクとなる。せん妄に対しては、環境調整や睡眠覚醒リズムの是正等の非薬物療法が基本となるが、症状が強く安全確保が困難な場合には、抗精神病薬による治療が必要となることがある。一方、これらの薬剤は統合失調症等に対して承認されており、せん妄に対する使用は添付文書上の適応外となる場合がある。しかしながら、国内外のガイドラインおよび実臨床において、重度せん妄に対する有効性および必要性が広く認識されている。
予想される 不利益と対策	【予想される不利益】 ・過鎮静、傾眠 ・転倒リスク増加 ・錐体外路症状（振戦、筋強剛、アカシジア等） ・QT延長、不整脈 ・誤嚥リスク増加 ・悪性症候群 【対策】 ・少量から開始し、必要最小限の投与量で使用 ・意識レベルおよび鎮静状態の定期的評価 ・必要に応じて心電図モニタリングを実施 ・錐体外路症状出現時は減量または中止を検討 ・非薬物療法（環境調整、昼夜リズム調整等）を併用 ・異常時は速やかに投与中止および適切な対応を実施
■ 問い合わせ先	イムス葛飾ハートセンター TEL：03-3694-8100（代表） （受付時間：平日 9:00～17:00）